

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 25 日現在

機関番号：33905

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530645

研究課題名（和文） 地域における継続的発達支援と大学臨床心理学資源の活用—システム構築への提言—

研究課題名（英文） The Practical Use for Continuous Supports to Child Development with Clinical Psychological Resource of University in Community—A Suggestion for the System Construction—

研究代表者

川瀬 正裕 (KAWASE MASAHIRO)

金城学院大学・人間科学部・教授

研究者番号：80224781

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：地域援助・継続的発達支援・大学臨床心理学資源

## 1. 研究計画の概要

## (1) 特別支援教育の実態調査

幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学における発達障害児（者）への対応についての調査研究を行う。この調査によって、各学校の中での実情を把握し、臨床心理学的支援のニーズを明らかにする。

## (2) 児童・生徒のメンタルヘルス評価・支援システムの研究

児童・生徒へメンタルヘルスに関する調査を実施し、要支援児童の発見、支援計画の策定、個別支援計画の策定、クラス全体に対する支援の策定を行い、評価から支援への一貫したシステムの構築を行う。

## (3) 児童・生徒への直接的支援の臨床研究

(2) および学校現場から要請のある児童・生徒に対して、個別の支援を行い、その方法、教材作成の研究、個別の指導計画の効果的策定と評価の方法を臨床的に検討する。

## (4) 統合保育への支援の実践研究

障害児を受け入れている幼稚園・保育園を訪問し、教諭・保育士・保護者らとの面談などを行い、支援の効果について分析を行う。

## (5) 子育て支援の実践研究

大学の地域支援活動として、子育て支援に関する講演会を行うとともに、その場での相談会を実施してその成果について分析を行う。

## 2. 研究の進捗状況

本研究は大学の臨床心理学資源の中でも主に人的資源を地域の発達支援に対してどのように活用できるのかをいうテーマであるが、その試みは多岐にわたっている。そのため、個々の作業の実施と評価は着実に進められているが、全体のまとめとしての提言に至っていないところである。

実態調査については、2年をあけての2回の調査を冊子にまとめたが、それらを比較してみると、特別支援教育の体制は整ってきているが、その実践の技法についてはまだ地域や学校においての差があるようである。特に高校・大学においては教師の意識も高まっていない側面がみられた。

児童・生徒のメンタルヘルスの支援システムについては、実践しながらの研究であることから一定の成果は得られたと考えられる、しかし、これも普遍性を持たせるような工夫については今後検討する必要がある。

児童への直接的支援については、蓄積がなされてきているので、まとめていくことができる状態となっている。学生のパワーを用いた支援については、徐々に多くみられるようになってきているので、他でも活用できるような提言ができるよう努力したい。

統合保育への支援についても同様である。ここでも他の地域でも実践できるような条件を探っていきたい。

子育て支援については、発達障害などの子どもの要因も複雑化してきているが、保護者の抱える問題も多様化してきており、対応が難しくなっている感がある。より有効な手段なども探る必要があるかも知れない。

こういった状況であるが、23年度にはこれらをまとめて大学として地域のどのよう

貢献できるのかを整理して明確化していく予定である。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

当初の予定をすでに達成しているものもあるが、達成へ向けて進行中の領域もある。それぞれの計画に対応して現状を述べる。

- (1) 実態調査は終了しており、分析中である。
- (2) 中学校を対象としての研究は実施し、継続的に検証を行っている。高等学校について試みようとしているところである。
- (3) 個別支援については継続的に行っており、事例として示す準備を進めている。事例の提示から効果に加えて、留意事項等が整理されると期待できる。
- (4) 保育園への調査研究は終了しており、データとして示す準備ができています。
- (5) 子育て支援については、相談会は継続的に実施しているが、その評価については、その方法および視点などについて検討中である。

### 4. 今後の研究の推進方策

当初の目的に照らしながら、データや事例の整理を行い、統合的なシステム構築への提言としてまとめていく予定である。そしてそれらを冊子として発刊することを目指している。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計4件)

①鈴木美樹江・川瀬正裕 中学校におけるメンタルヘルス尺度構成の試み—スクールカウンセラー活動の一環として— 日本心理臨床学会第28回大会 2009年9月21日 東京

②鈴木美樹江・川瀬正裕 CRS(Child Rating Scale)日本語版作成の試み 日本教育心理学会第51回総会 2009年9月20日 静岡市

③永原 知佳 特別支援教育の現状と課題—幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学の比較検討— 第49回日本児童青年精神医学会総会 2008年11月7日 広島市

④飯田 愛 通常学級において継続的個別支援を行った広汎性発達障害児の事例 第49回日本児童青年精神医学会総会 2008年11月5日 広島市

[図書] (計0件)

[その他] (計2件)

調査結果報告

①川瀬正裕・今村友木子・仁里文美・井手裕子・永原知佳 特別支援教育に関する実態調査—2007年度調査との比較検討— 2010年

②永原知佳・川瀬正裕・松本真理子 特別支援教育の現状と課題—幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学の比較検討— データブック 2008年